

## 第4回 物語文 気持ちと人物像(1)

◆ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学生の川本雄吾は、学校での生活がバカらしくなり、学校を休みがちとなった。学校に行かず公園のベンチに座っていた雄吾は、「源ジイ」と出会い、廃品回収の仕事を手伝うようになった。ある日、源ジイが脳血栓で倒れて入院してしまい、以来、雄吾はその世話をしていた。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

15

10

5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40

35

30

25

20

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

70 65 60 55 50 45

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

23 95 90 85 80 75

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

125

120

115

110

105

100

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(石田衣良「夕日へ続く道」より、『約束』所収)

(注) 大儀(たいぎ)そう：大変そう。苦勞(くろう)する様子。

インテリ：学問や知識がある人。知識人。

## 標準演習

問一 線①～③の言葉を、同じ意味の別の表現にした場合、

□にあてはまる漢字一字を答えなさい。

① 血のつながりのない ↓ □の他人

② 口のなかでつぶやいた ↓ 独□した

③ 勝ち目がある ↓ 勝□がある

問二 線A「息をのんだ」B「気おされて」の言葉の意味とし

て最もふさわしいものを後から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 息をのんだ

ア 深いため息をついた

イ 緊張(きんちよう)して息がでえなかつた

135

130

- ウ 恐怖で息がでなかった
- エ おどろいて息をとめた
- B 気おされて

- ア 相手の言動におどろいて
- イ 相手の勢いにおされて
- ウ 相手の雰囲気感動して
- エ 相手の言葉におこつて

問三

線①「真治の声は真剣だった」とありますが、このときの真治の気持ちとしてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。 気持ち

- ア 真治は雄吾に知り合いの手伝いをさせられないことを、残念に思っている。
- イ 真治は雄吾が見ず知らずの他人の役に立つことを、この上もなく喜んでいる。
- ウ 真治は雄吾が無関係の他人の世話をすることに対して、抵抗を感じている。
- エ 真治は雄吾が学校以外でいきいきできる場所を見つけられ、ほっとしている。

問四

線②「透明人間にでもなったような気がする」とありますが、このとき雄吾はどのような気持ちだったと考えられますか。「無視」という言葉を使って、三十文字以内で説明しなさい。

気持ち


問五

線③「おれが勝ったら兄ちゃんはおれのいうことをきく」とありますが、「源ジイ」が勝った場合、具体的に「雄吾」に

どうしてほしいのですか。二十文字以内で、「ほしい。」という形で答えなさい。 気持ち


問六

線④「賭けをやるまでもない」とありますが、これはどういうことですか。ふさわしいものを次からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 賭けなどしなくても、父親が反対しているので、もうこれ以上源ジイの世話をすることはできそうもないということ。
- イ 大人と何かを賭けて勝負するなどということは中学生がしていいことではないので、やりたくはないということ。
- ウ 賭けなどしてもしなくても、雄吾はこれからも源ジイの世話をしに来るつもりなので、むだであるということ。
- エ 源ジイの今の身体の調子では賭けをするなどということはむだであり、自分が勝つに決まっているということ。
- オ 決戦の金曜日までには源ジイの身体の調子も回復しているかもしれないので、負けるかもしれないということ。

問七

「源ジイ」が「雄吾」との賭けで実際に廊下を歩く様子が描かれているのは、文章中のどこからどこまでですか。そのはじめと終わりの七字を書きぬいて答えなさい。

はじめ	終わり

# 発展演習

## 問一

〜〜線①「兄ちゃんのためだから」とありますが、このときの「源ジイ」の気持ちの説明としてふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 誰かや何かのために一生懸命になることがどれほどつらくて大変で、しかし価値のあることであるのかを身をもって雄吾に示し、これまでの雄吾の考え方がいかに愚かだったかに気づいて欲しいと思う気持ち。

イ 今まで誰かのために何かをしたことなどないが、これまで雄吾が自分の身の回りの世話をしてくれたことに恩を感じ、そのお礼に自分がんばる姿を見せて、感謝の気持ちをもつことの大切さを知って欲しいと思う気持ち。

ウ この賭けには何がなんでも勝って、いつか雄吾自身の生活に役立てるためにも雄吾に自分の言うことをきかせることで、いつでも自分の身の回りの世話や手伝いをする存在であって欲しいと思う気持ち。

エ 自分がこれからどれだけがんばれるかは分からないし賭けには負けるかもしれないが、自分が精一杯の努力をし、その姿を見せることで雄吾に大人とはすごい存在であるということを知って欲しいと思う気持ち。

オ 一見して何の価値もなくむだなことのように思えることで、そのために一生懸命になるといのはとても大切であり、そのこと自体に意味があるのだということを雄吾に改めて考えて欲しいと思う気持ち。

## 問二

〜〜線②「泣きながら、老人を抱き起こし、車椅子に座らせる」とありますが、このときの「雄吾」の気持ちを百字以内で説明しなさい。


問三

~~~~線③「バカらしさ」について、次の問いに答えなさい。  
 ① 「バカらしさ」とは、ここではどのようなことですか。簡潔に説明しなさい。

|  |
|--|
|  |
|--|

② 「源ジイ」との約束をする前と後とでは「雄吾」の「バカらしさ」というものについての考え方はどのように変化しましたか。それぞれ「く考えている。」という形で、四十字以内で書きなさい。

【前】

|  |
|--|
|  |
|--|

【後】

|  |
|--|
|  |
|--|

問四

「雄吾」は、「源ジイ」との出会いを通して考え方が変わりました。人との出会いを通してあなたの考え方が変わったことについて、変わる前と後の違いが分かるように、百字以内で説明しなさい。

|  |
|--|
|  |
|--|